都市型災害に備えるための千代田区内保育園・幼稚園における 生活密着型防災教育プログラムの構築 —イベント型から生活密着型への変換— —共立女子大学 看護学部 小児看護学—

目的

本研究の最終目的は、首都直下型地震をはじめとする、都市型の災害に備えるための、千代田区内保育園・幼稚園における生活密着型防災教育プログラムの構築を目指すものである。
そのための調査として、千代田区内の保育園・こども園における、防災および減災の活動に関する現状について質問紙調査により明らかにする。

研究内容・結果

方法

千代田区のウェブサイト上で紹介されている「令和4年度保育園・こども園一覧」にある33園を対象とし、郵送式質問紙調査を実施した。
自記式質問紙の主な質問項目は、火災や地震等、各状況を想定した訓練の実施状況、災害を想定したマニュアルの存在、活用や見直し、防災・減災活動、あるいは災害全般に対して感じていること等であった。主として選択回答、一部自由記載による回答とした。
対象の各園の施設長宛に質問紙を郵送し、同封した返信用封筒により回収した。選択回答の各項目については単純集計、自由記載については内容の分析を行った。
共立女子大学研究倫理審査委員会の承認後に実施した（承認番号 No22001）。

結果

1. 状況を想定した訓練

発生頻度が高い災害は、高頻度で訓練を実施されていた。自然災害だけでなく、人災に対する訓練の実施もあった。

	1か月に1回	2か月に1回	3か月に1回	2~3か月に1回	年5回
火災	9	4	3	1	
地震	9	4	2	1	1

	6か月に1回	1年に1回	2年に1回	実施なし
洪水や水害	4	9	1	2
竜巻や風害	1	1		13

	6か月に1回	1年に1回	不定期
不審者	4	5	1
Jアラート	1		1
保護者へのひき渡し		1	

2. 災害を想定したマニュアル

ほとんどの施設がなんらかのマニュアルを持っていたが、災害の種類により違いがあった。

	あり	なし
火災	16	1
地震	16	1
洪水・水害	14	3
竜巻・風害	4	13
その他 (雪害・落雷など)	1	

	あり
不審者	3
Jアラート	1

3. 現状の訓練に対する考え

半数の施設は、現状で対応できると考えていた。

今のままで十分役に立つと思う	9
マンネリ化している	5
子どもに真剣身がない/足りない	2
職員に真剣身がない/足りない	1
必要性がわからない	0
本当に役立つのかわからない	1

4. 災害全般に対する考え

職員に関すること

遠方に住む職員は発災後対応が難しい
様々な状況を想定して動けることが必要
準備性に関すること

大災害が未経験で訓練が活かせるか心配
応急対応ができる準備が必要

まとめ

回収率が十分ではなかったが、いくつかの特徴がみえた

- マニュアルの整備や見直しは定期的に行われていた
- 訓練などは、実施のありかたに改善の余地がみられた
- 職員が発災後の状況に応じて対応できるような訓練や準備への工夫が必要